

# 「水道事業ガイドライン」業務指標

## 1 水道事業ガイドラインの概要

水道事業ガイドラインは、国際規格であるISO/TC224（水道サービスの評価に関するガイドライン）の基本理念に基づき、平成17年1月に（社）日本水道協会が、水道事業体の事業内容を共通指標により数値化する国内規格として制定したものです。

その後、東日本大震災の影響（耐震対策の強化）、新水道ビジョンの策定（平成25年3月）、水質基準などの関係法令の改正といった、水道を取り巻く環境が大きく変化していることへの対応のため、平成28年3月に改正されました。

改正前の水道事業ガイドラインは、水道サービスの目標を安心・安定・持続・環境・管理・国際の6つの柱として分類していましたが、改正後は、安全で良質な水、安定した水の供給、健全な事業経営の3つを柱として分類されました。

これにより、業務指標が、137項目から119項目へと改正されました。

### <業務指標の構成>

目標	項目数	目標の内容
A) 安全で良質な水	17	水道水の安全性をより一層高め、良質な水道水を供給
B) 安定した水の供給	57	いつでもどこでも安定的に水道水を供給
C) 健全な事業経営	45	健全かつ安定的な事業経営の継続

## 2 業務指標の活用

この業務指標を用いて、水道事業を様々な角度から、客観的に分析・評価し、今後の経営方針やサービス向上に活用していきたいと考えています。主な活用方法は次のとおりです。

- (1) 現状分析
- (2) 問題点の把握
- (3) 今後の目標及び施策の決定
- (4) 他の事業体との比較
- (5) 説明責任の明確化（水道事業の透明性確保）

### 3 主要背景情報(CI)

主要背景情報(CI)とは、水道事業ガイドラインが、平成28年3月に改正されたことに伴い新たに追加されたものです。具体的な項目は、水道事業体のプロフィール、システムのプロフィール、地域条件のプロフィールの3つに分類されています。これらのプロフィールは、水道事業体の努力、工夫では変化しにくいものであるとともに、業務指標に大きく影響する因子であるため、業務指標と併せて公表しています。

また、他の類似水道事業体の業務指標を参考として活用する場合の収集・抽出にも活用できます。

主要背景指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度
水道事業体のプロフィール	給水人口規模	人	373,003	370,062	368,683
	全職員数	人	82	84	84
システムのプロフィール	水源種別	—	伏流水 表流水 地下水	伏流水 表流水 地下水	伏流水 表流水 地下水
	浄水受水率 (浄水受水量/年間取水量)	%	68.8	69.2	69.1
	給水人口1万人当たりの浄水場数 【浄水場数/(現在給水人口/10,000人)】	箇所 /10,000人	0.3	0.3	0.3
	給水人口1万人当たりの施設数 (浄水場数+送・配水施設) / (現在給水人口/10,000人)	箇所 /10,000人	0.7	0.7	0.7
地域条件のプロフィール	有収水量密度 (有収水量/計画給水区域面積)	1,000 m <sup>3</sup> /ha	1.7	1.7	1.7
	水道メーター密度 (水道メーター数/配水管延長)	個/km	76.4	76.7	76.9
	単位管延長 (導送配水管延長/現在給水人口)	m/人	6.0	6.1	6.1

### 4 主な業務指標の算定結果

表の見方 番号：「上段」新番号「下段」旧番号

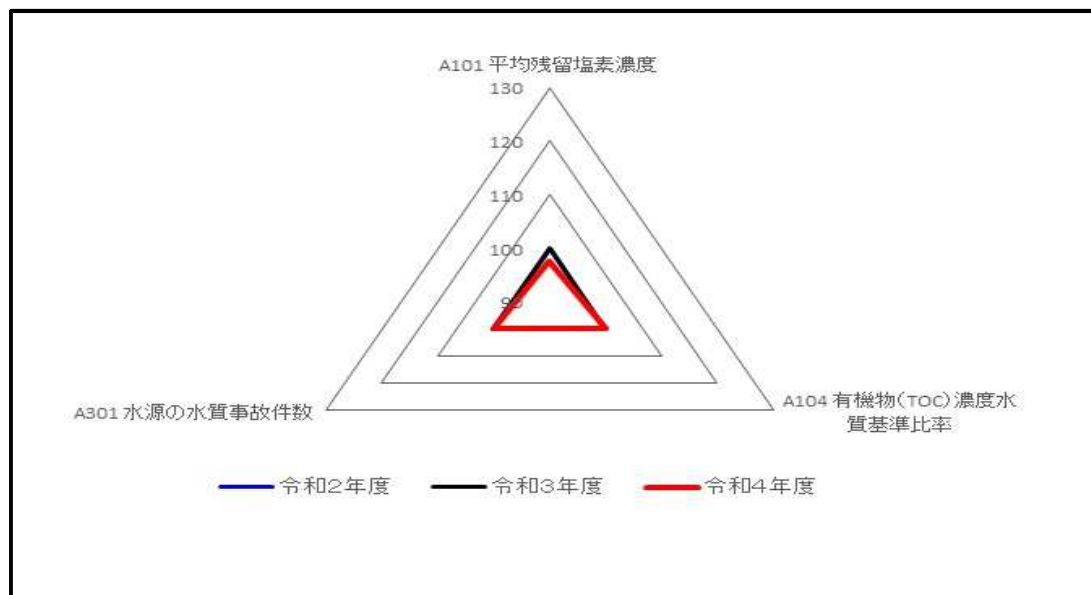
望ましい方向：「↑」高い数値ほどよい。「↓」低い数値ほどよい。

グラフの見方 : 令和元年度の数値を100とした場合の各年度の数値の割合を示しています。

## A) 安全で良質な水

### 【主な業務指標】

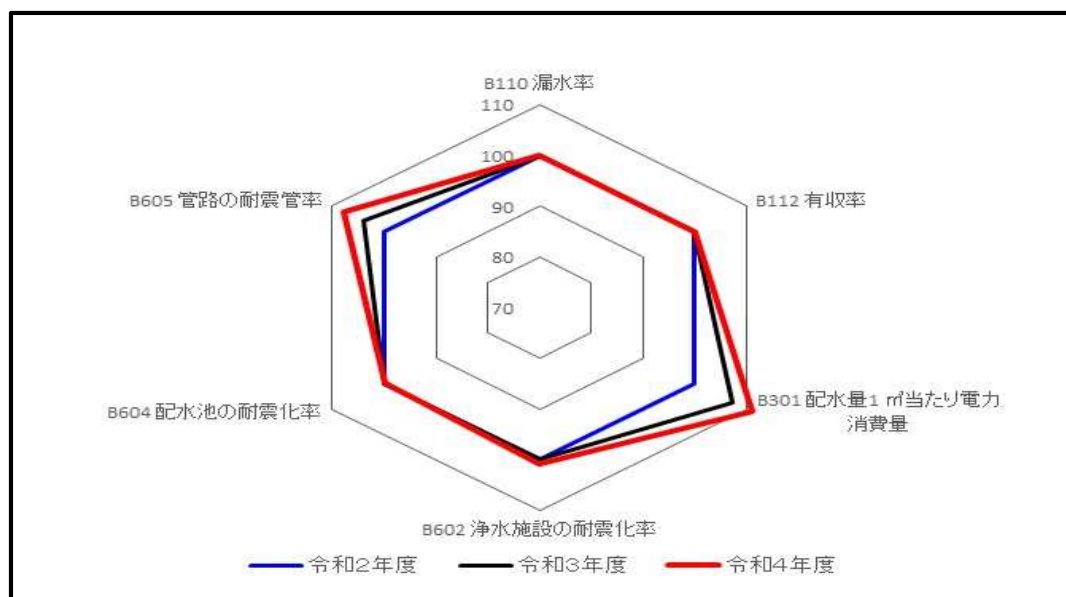
番号	業務指標	望ましい方向	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
A101	平均残留塩素濃度 (mg/L)	↓	0.45	0.45	0.44	残留塩素の多少による水道水のおいしさを示す指標。 残留塩素濃度は、0.1 mg/Lを確保した上で、なるべく小さな値にすることが望ましいとされています。
A104	有機物 (TOC) 濃度 水質基準比率 (%)	↓	13.2	13.2	13.2	有機物の多少による水道水の安全性やおいしさを示す指標。 一般的に値が低いほうが良い水とされています。
A301	水源の水質事故件数 (件)	↓	0	0	0	水源の突発的水質異常のリスクがどれだけあるかを表す指標。 水道事業体が通常予測できない水道原水の水質変化によって、給水制限、取水停止、取水制限、又は特殊薬品の使用のいずれかの対応措置を行った場合の件数。



## B) 安定した水の供給

### 【主な業務指標】

番号	業務指標	望ましい方向	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
B110	漏水率 (%)	↓	2.9	2.9	2.9	年間の漏水量の配水量に対する割合を示すもので、事業効率を表す指標。
B112	有収率 (%)	↑	93.1	93.1	93.0	水道施設や給水装置を通して給水される水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標。原則として100%に近い数値ほどよいとされています。
B301	配水量 1 m <sup>3</sup> 当たり電力消費量 (kWh/m <sup>3</sup> )	↓	0.27	0.29	0.30	取水から給水栓まで 1 m <sup>3</sup> の水を送水するまでに要した電力消費量を示す指標。その多くは送水、配水のための電力量で、地形的条件に左右されます。
B602	浄水施設の耐震化率 (%)	↑	46.9	46.9	47.3	震災時においても安定的な水道水の供給ができるかどうかを表す指標。
B604	配水池の耐震化率 (%)	↑	100.0	100.0	100.0	
B605	管路の耐震管率 (%)	↑	19.4	20.2	20.9	



## C) 健全な事業経営

### 【主な業務指標】

番号	業務指標	望ましい方向	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
C102	経常収支比率 (%)	↑	108.0	107.5	103.6	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す指標。 100%を超えると経常利益が出ていることを表します。
C112	給水収益に対する企業債残高の割合 (%)	↓	91.8	92.0	91.4	企業債（借金）残高の規模と経営への影響を分析する指標。 企業債残高は、少ない方が余裕をもった経営が可能となります。
C126	料金収納率 (%)	↑	91.5	91.5	91.4	1年間の水道料金総調定額に対して、決算確定時点において納入されている収入額の割合を示す指標。水道事業の経営状況の健全性を表しています。
C206	国際協力派遣者数 (人・日)	↑	0	0	0	国際協力をしているか否かを見る指標。
C207	国際協力受入者数 (人・日)	↑	0	0	0	

